

まとめ

この報告書をまとめるに当たって、社団法人日本ツーバーフォー建築協会は技術委員及び学識経験者による調査団を組織し、平成23年4月28日、29日に仙台市及び石巻市を中心に被害状況に関する現地調査を行いました。

その結果、地震動の特徴として、木造建築物に厳しい1～2秒の成分が少なかったこともあり、震動による被害は大きくなく、地盤変状による被害や津波による被害（浸水被害）が顕著なことが分かりました。

更に当ワーキングでは津波波力による被害について理論計算を含む詳細な検討を行いました。

また、被害状況に関するアンケート調査を実施するとともに、補修方法、浸水・津波対策に関する文献調査も行いました。

アンケート調査では、津波被害により全壊、半壊が相当数あり、地盤変状に伴う被害も津波ほどの数はないが、全壊、半壊が見られました。但し、震動被害はほとんど一部損壊程度に留まり、全体では95%のツーバイフォー住宅が居住に支障ない状態で、引き続き耐震性の高さが証明されました。

会員から補修方法等の事例を提供いただき、また、塩水の対応等について検討を行うために浸水、津波対策に関する国内外の資料を収集しました。

この報告書が枠組壁工法における耐震性の向上につながる調査研究資料として生かされることを期待します。

2011年8月

東北地方太平洋沖地震緊急対策本部
地震被災状況調査WG 主査

岡田 恒